

第46期 株主通信

2025年4月1日 ▶ 2025年9月30日



...for patient comfort.



ごあいさつ

—中期目標を上方修正。新たなスタートを切る—



代表取締役社長
社長 執行役員 **鈴木 啓介**

株主の皆さまには平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。2026年3月期は5か年の中期経営計画(2024年3月期から2028年3月期)の3期目にあたります。2期目の終わりに成長戦略の総合レビューを実施し、2025年5月に本計画の目標数値を上方修正しております。当期より、この新たな目標達成に向け、全社一丸となって邁進してまいります。

当社の事業環境における最も大きな変化は、主力事業のEP/アブレーションにおける治療法のシフト、すなわちパルス・フィールド・アブレーション(PFA)の拡大です。これにより、自社のカテーテル販売数量の減少が見込まれるため、当社が対応すべき最重要課題であると認識しております。これまでに想定を上回る影響を受けた側面もございましたが、継続的な新商品の導入等により、影響の緩和に努めました。結果として、当上期は増収増益となり、過去最高益を達成することができました。

今後も、商社とメーカーの双方の機能を併せ持つ当社の独自の強みを最大限に活かし、競争環境の変化に柔軟に対応してまいります。

株主の皆さまにおかれましては、今後とも変わらぬご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

Q 2026年3月期上期の業績と通期見通しについて教えてください

A 2026年3月期の上期業績は、売上高29,285百万円（前年同期比4.6%増）、営業利益6,620百万円（同5.7%増）、親会社株主に帰属する中間純利益4,774百万円（同7.7%増）となり、いずれも上期として過去最高を更新いたしました。これは、期初に発表した業績予想に対しても、ほぼ想定通りの着地でありました。

当上期は、中期経営計画で重点施策としている

「競争力ある製品の継続的導入」と「新領域の拡大」が引き続き順調に進展いたしました。中核事業のEP/アブレーションでは、PFAの浸透により自社製品の販売は一定の影響を受けました。しかしながら、心房細動症例数の継続的な増加を背景に、心腔内除細動カテーテルや大腿静脈用止血デバイスといったコア製品群が伸長し、その影響をカバーいたしました。心血管関連においても、大動脈疾患におけるリーディングカンパニーとしてFrozen Elephant Trunkの拡販に取り組み、市場の裾野を拡大したこ

とが収益増加に貢献いたしました。また、「新領域の拡大」についても、脳血管関連と消化器の両領域で複数の新モデルを追加した結果、それぞれ二桁増収が継続するなど、順調に進捗しております。

販売費及び一般管理費については、将来への戦略的投資を加速する中で、人件費や研究開発費が前年同期比で増加いたしました。このコスト増の影響は販売面の好調で吸収するとともに、前期に引当計上した破産更生債権の一部を回収できたという一過性の要因も寄与し、営業利益および中間純利益は増益での着地となりました。

通期の見通しについては、販売面および費用執行ともに、おおむね計画通りを見込んでおります。このため、現時点では期初の業績予想を据え置いております。

Q 上期から導入したリードマネジメント製品はどのようなねらいがあるのでしょうか

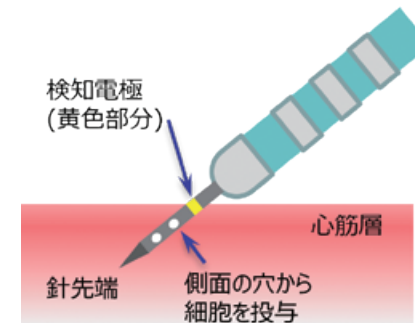
A 不整脈を治療するための心臓植込みデバイスを取り扱うリズムデバイス領域において、このたびPhilips社製のリードマネジメント製品の取扱いを開始いたしました。これまではデバイスの「植込み」が中心でしたが、新たに感染症やリード損傷時などの「抜去」という選択肢が加わりました。これにより、デバイスの植込みから抜去まで一貫したサポートを提供できる体制が整い、既存製品とのシナジーも期待できます。当社の全国をカバーする広範な営業網を駆使することで、リードマネジメント手技のさらなる浸透を図り、医療現場への貢献を一層深めてまいります。

Q Heartseed社との協業・提携について教えてください

A 2025年9月、再生医療のバイオベンチャーであるHeartseed社（東証グロース：219A）と、協業・提携に関する共同プレスリリースを発表いたしました。Heartseed社は、重症心不全の治療法として、他家iPS細胞由来心筋球を用いる「心筋補填療法」の社会実装を目指しており、この領域において臨床開発段階の最終治験を進めている世界で唯一の企業です。

今後、Heartseed社がグローバル戦略品として推進する「カテーテルを用いた心筋球の投与」において、共同開発した投与カテーテルシステムを当社が供給する形で、協業・提携を進めてまいります。投与カテーテルシステムは、3Dマッピングに対応しており、投与針が心筋層へ到達したことを検知する仕組みを備えるなど、投与の安全性と精度を向上させるための様々な工夫が凝らされております。

当社は、今後、2026年から始まる治験用の製品をHeartseed社に納入するとともに、引き続き同社と緊密な連携を図りながら、製品のさらなる改良を重ねてまいります。



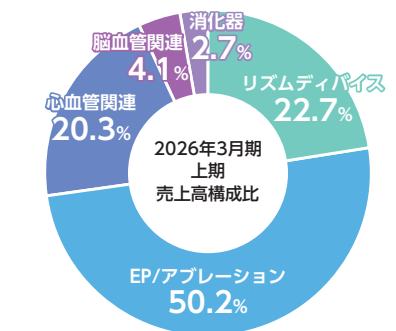
投与針が心筋層へ到達したことを検知する仕組み

販売ハイライト

品目別の販売状況

- リズムデバイスは、前年同期比0.9%の減収となりました。コア製品のS-ICDは、他社の新製品の影響を受けつつも販売数量を順調に伸ばしましたが、ペースメーカの販売が低調に推移しました。
- EP/アブレーションは、前年同期比4.1%の増収となりました。PFA*1の浸透により一部の製品は販売数量を落としたましたが、コア製品の心腔内除細動カテーテルと大腿静脈用止血デバイスが好調に推移しました。
- 心血管関連は、前年同期比5.0%の増収となりました。コア製品のFrozen Elephant Trunkが市場拡大により堅調に推移したほか、新たに販売を開始したTAVI用センサー付きガイドワイヤーが成長に寄与しました。
- 脳血管関連は、前年同期比48.4%の増収となりました。血栓吸引カテーテルは、末梢血管向けの新モデルが好調に推移しました。また、前期に導入したステントリトリバーも順調に採用施設を伸ばしました。
- 消化器は、前年同期比15.7%*2の増収となりました。胆管チューブステントは、当期導入の新モデルが高い臨床評価を獲得し、好調に推移しました。内視鏡ガイドワイヤー等のその他の製品も堅調に推移しました。

*1 特集（P.5～6）参照 *2 終了事業を除いた売上高は前年同期比25.0%の増収



リズムデバイス

売上高
6,666百万円
(前年同期比 △0.9%)

▼主要取扱品目

- ・心臓ペースメーカ
- ・T-ICD（経静脈植込み型除細動器）
- ・S-ICD（完全皮下植込み型除細動器）など

EP/アブレーション

売上高
14,707百万円
(前年同期比 +4.1%)

▼主要取扱品目

- ・EP(電気生理)カテーテル
- ・心腔内除細動カテーテル
- ・大腿静脈用止血デバイス など

心血管関連

売上高
5,936百万円
(前年同期比 +5.0%)

▼主要取扱品目

- ・人工血管
- ・Frozen Elephant Trunk
- ・ステントグラフト など

脳血管関連

売上高
1,187百万円
(前年同期比 +48.4%)

▼主要取扱品目

- ・塞栓用コイル
- ・血栓吸引カテーテル
- ・ステントリトリバー など

消化器

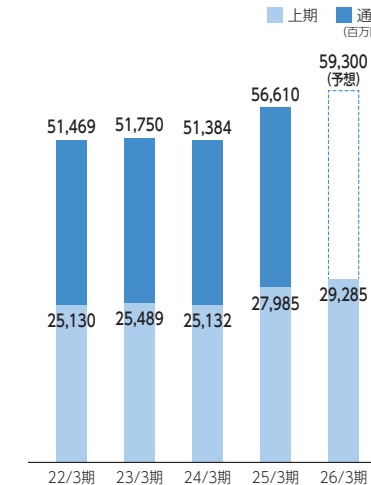
売上高
787百万円
(前年同期比 +15.7%)

▼主要取扱品目

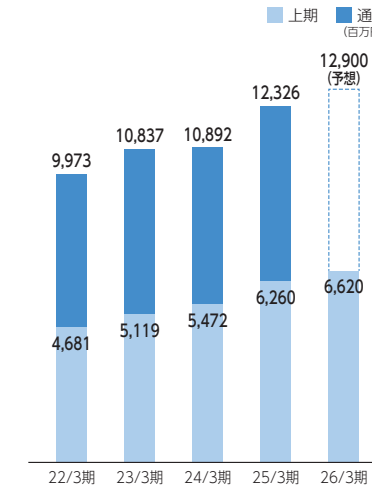
- ・胆管チューブステント
- ・大腸用ステント
- ・肝癌治療用ラジオ波焼灼電極針 など

主要連結財務データ

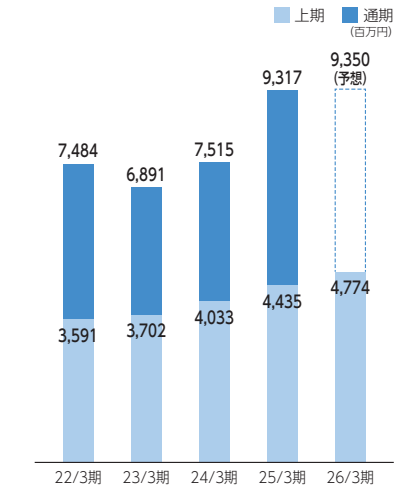
売上高



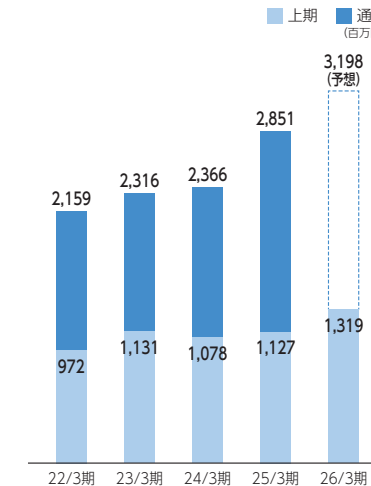
営業利益



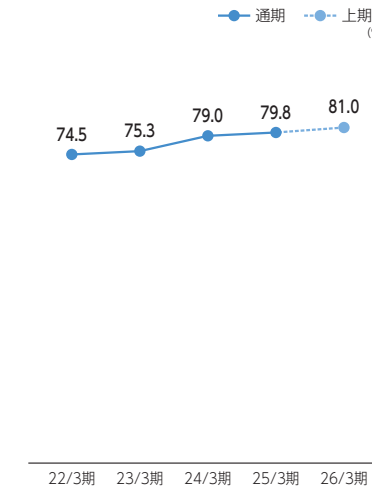
親会社株主に帰属する中間(当期)純利益



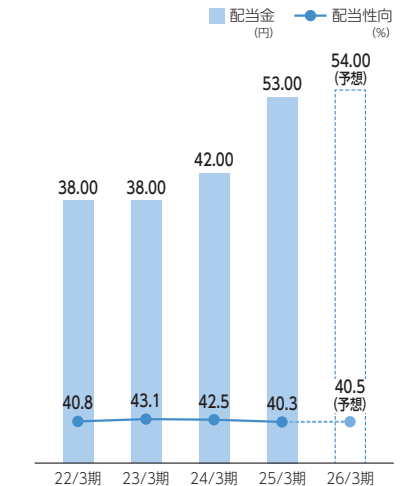
研究開発費



自己資本比率

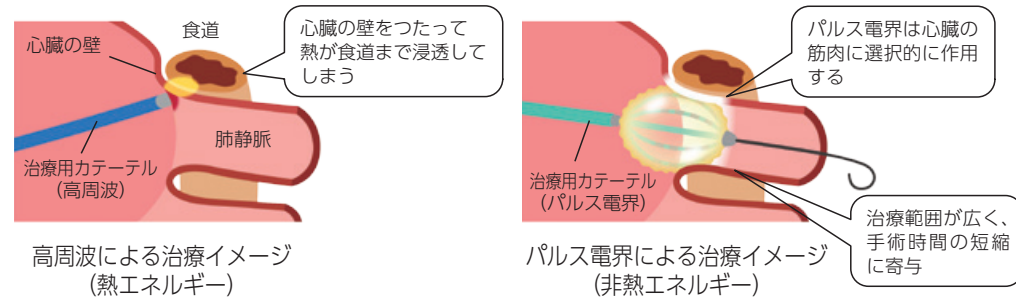


配当金・配当性向



パルス・フィールド・アブレーションとは

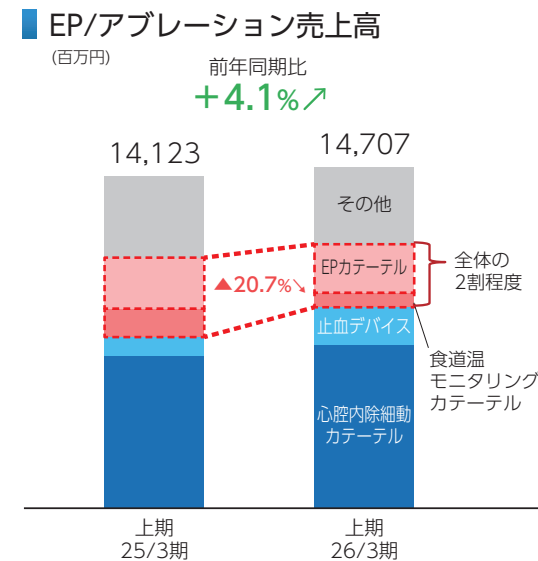
パルス・フィールド・アブレーション（Pulsed Field Ablation; 以下、「PFA」）とは、心房細動等の不整脈に対する新しい治療法（カテーテルアブレーション法）です。従来の治療法では高周波等の熱エネルギーを使用しますが、PFA では非熱エネルギーであるパルス電界を用います。パルス電界は心筋組織に選択的に作用するため、食道や神経といった周辺組織への影響を抑えられるという特長があり、治療の安全性向上に寄与することが期待されています。また、従来の治療法よりも簡便で手術時間も短くなることから、2024年9月の保険適用以降、急速に市場に浸透しました。



当社への影響

PFAの普及は、当社に対して短期的にはネガティブに影響しますが、中長期的で見ればポジティブに働きます。PFAでは心臓周辺の組織における合併症を抑えられるため、食道温モニタリングカテーテルは使用されなくなります。また、治療効果を測定するEPカテーテルも、PFAカテーテルで代用できるため使用が減少しています。一方で、PFAでは手術時間が短くなるため、治療件数の増加が期待されています。コア製品である心腔内除細動カテーテルと大腿静脈用止血デバイスはPFAにおいても継続して使用されるため、中長期的に市場拡大という大きな恩恵を享受することができます。

当期はPFAの導入期にあたり、食道温モニタリングカテーテルをはじめ一部の製品の売上高は大幅に減少する見通しです。しかしながら、これらの製品が占める売上高構成比は小さく、その影響は事業全体から見れば限定的です。長期的には、治療件数の増加により、PFAの普及は当社の事業成長に寄与していくものと考えています。



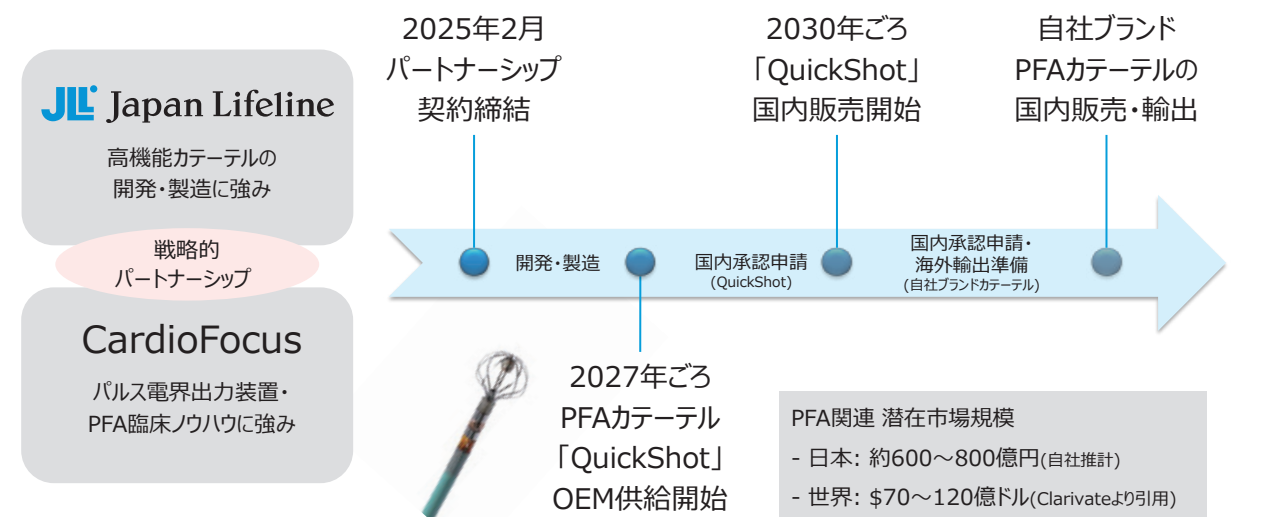
当社の取組み

米国のCardioFocus社と戦略的パートナーシップを締結し、PFA製品の開発を進めています。PFAは心房細動に加え、その他の不整脈に対するアブレーション治療への適応も期待されており、市場のさらなる拡大が見込まれています。この事業環境の変化を成長機会と捉え、当社の強みである高機能カテーテル製造技術と、CardioFocus社の優れたパルス電界出力装置を組み合わせることで、競争力あるPFA製品の市場導入を目指しています。

当社は2種類のPFAカテーテルでグローバル市場への参入を計画しています。1つ目は当社がOEM製造を担う「QuickShot」です。本製品はパルス電界の送出範囲を限定することで、他社の既存製品では対応の難しい局所的な治療を可能にするPFAカテーテルとして開発しています。販売については、当社は「QuickShot」の日本・韓国・台湾における独占販売権を有しており、2030年ごろの販売開始を予定しています。欧米等のその他の国や地域においては、CardioFocus社への独占供給を通じて、グローバル展開の一翼を担います。

2つ目は、自社ブランドのPFAカテーテルです。国内でトップシェアを誇るEPカテーテルの製造ノウハウを活用し、標準的な心房細動治療*1に特化した製品として開発しています。国内外での販売は2030年以降となる見通しです。全国48拠点の営業網を活かして、医療現場の声を収集し、迅速に製品へ反映させることで、後発ながらも競争優位性の高い製品を投入してまいります。

*1 肺静脈隔離術：心房細動の発生源である肺静脈を左心房から電気的に隔離する治療



株主アンケート

みなさんの
お聞かせください

<https://koekiku.jp>

アクセスキー

抽選でギフト券を進呈！

サービス運営会社：株式会社プロネクサス
お問い合わせ：コエキク事務局
koekiku@pronexus.co.jp

コエキク

工場見学のご案内

当事業へのご理解をより一層深めていただくために、株主さま向け工場見学会を実施いたします。
詳細は応募方法に記載の二次元コードよりご確認ください。
皆さまのご応募を心よりお待ちしております。

◆日時

2026年3月6日(金) 13:30～16:00

◆集合・解散

JR戸田公園駅 西口

◆見学施設

日本ライフライン株式会社
戸田ファクトリー

◆募集人数

20名(同伴者をご遠慮ください)

◆応募方法

下記の二次元コードからお申込みいただけます
申込期限：
2026年1月30日(金) 17:00

◆お問い合わせ先

日本ライフライン株式会社
経営企画部
03-6711-5214
受付時間 9:00～17:30(土・日・祝日を除く)



会社概要 (2025年9月30日現在)

商 号	日本ライフライン株式会社
所 在 地	東京都品川区東品川二丁目2番20号
設 立	1981年2月6日
資 本 金	2,115百万円
従 業 員 数	連結1,301名 単体1,076名
連 結 子 会 社	JLL Malaysia Sdn. Bhd.

取締役 (2025年9月30日現在)

代表取締役社長 社長執行役員	鈴木 啓介	社 外 取 締 役	池 井 良 彰
代 表 取 締 役 副社長執行役員	村瀬 達也	社 外 取 締 役	川原奈緒子
取締役常務執行役員	江川 毅芳	社 外 取 締 役	中 川 理 恵
取締役常務執行役員	山田 健二	取 締 役 (常勤監査等委員)	高 橋 省 悟
取締役常務執行役員	高宮 徹	社 外 取 締 役 (監査等委員)	苅 米 裕
取締役上席執行役員	干場由美子	社 外 取 締 役 (監査等委員)	太 田 知 成
取締役上席執行役員	伊藤 孝志		

株主メモ

事 業 年 度	4月1日から3月31日まで
定時株主総会	6月
単 元 株 式 数	100株
配 当 金 受 領 株 主 確 定 日	3月31日 なお、中間配当を実施する場合の株主確定日は、 9月30日といたします。
上 場 取 引 所	東京証券取引所 プライム市場
公 告 方 法	電子公告 https://www.jll.co.jp ただし、電子公告によることができない事故、その他 のやむを得ない事由が生じた場合は、日本経済新聞に 掲載して行います。

株式に関するお問い合わせ

1. 住所変更、単元未満株式の買取・買増請求、配当金受取方法の指定・変更等

▶ 証券会社等の口座に株式をお持ちの株主様
口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。

▶ 特別口座に記録された株式をお持ちの株主様
特別口座管理機関にお問い合わせください。

三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
電話：0120-232-711 (通話料無料)

2. 未受領の配当金について

三菱UFJ信託銀行本支店で支払いいたします。

日本ライフライン株式会社

〒140-0002 東京都品川区東品川二丁目2番20号
電話 03-6711-5200
URL <https://www.jll.co.jp>



見やすく読みまちがえにくい
ユニバーサルデザインフォント
を採用しています。